

# そよかぜ

佐久市社会教育委員だより 第9号  
2022(令和4)年12月 発行



「そよかぜ」…このタイトルのように佐久市に 社会教育の風を吹かせ、  
生涯にわたって学び続け、互いに支え合い、高め合う市民を目指していきましょう！

## ★社会教育委員の活動★

〔社会教育委員 独任制〕

前号「そよかぜ」8号では、佐久市社会教育委員会議の活動テーマ『居場所について』の活動状況や展望をお知らせしました。

三つの研究グループ「コミュニティー・スクール」「子育て支援」「多世代交流」は、来年度に予定している提言において活発に活動しています。

ところで、社会教育委員は「独任制」といって、委員一人一人が独自に社会教育の為に活動することも認められています。12名いる佐久市の社会教育委員は、各々が拠って立つ基盤は様々ですが各自がその基盤に基づいて行動しています。今号では、委員各々の日頃の活動の一端を発信します。

また、佐久市地域公民館連絡協議会選出の小野忠朝委員が退任され、新たに7月から窪田光男委員が委嘱されました。

もくじ

- ☆子どもたちの安らぎの場所『子どもカフェ』（原 英正 委員）
- ☆親子でまなぶ（佐々木 愛歌 委員）
- ☆社会教育委員として（窪田 光男 委員）

## ■子どもたちの安らぎの場所『子どもカフェ』

コロナ禍、物価高・・・私たちの身の回りにはたくさんの不安なことがあります。そんな中で、子どもたちはどのような生活をしているのでしょうか。

私はふだん佐久教育会館で仕事をしていますが、先日、涙ながらに教育会館を訪れた方がいらっしゃいました。子どもが学校に行きたがらない・・・私はただただお聞きする以外ありませんでしたが、苦しい胸の内がひしひしと伝わってきました。

朝食を食べないで学校へ来る子もいます。朝ごはんを食べないで授業を受けていると、学習に集中できないというデータがあります。保健室等、学校では様々な対応をしてくれています。

学校に自分の居場所がない子どもたちには、フリースクールや中間教室等、様々な方法で様々な方々が支援の手を差し伸べてくれています。そのひとつに『子どもカフェ』があります。

「どなたでもご利用いただける地域の居場所になりたいと思っています。」

子どもカフェを運営する方の言葉です。いろいろな相談、ひと休みの場所、日々の手助けと活動は様々です。食事も提供してくれます。高校生や大学生にも協力してもらって、いろいろなイベントも開催しています。

「子どもカフェは【人と人をつなぐ居場所】。」スタッフの方のこの言葉が印象に残りました。「子どもも殴られているんだよ。」と言いつつ見せてくれた生々しいママ友の頭の傷。お話を聞いているうちに安心したのか、心を開いてくれました。そして、公共機関につながりました。

母子家庭の親子のがんばりと苦しみも日々伝わってきます。野菜を届けにいった言葉掛けをします。被害に遭うのはいつも子どもです。でも、子どもたちは「高校生のお兄ちゃんと遊べて楽しいよ。」と言ってくれます。健気です。

安心できる居場所、楽しく勉強できる時間と支えてくれる人、一緒に遊んでくれる人、ご飯をおなかいっぱい食べられる幸せ、今、子どもたちにとって『子どもカフェ』はなくてはならない場所になりました。

子どもカフェは多くの方々の支援が必要です。ボランティアをして下さる方、畑の残り物でいいので提供して下さる方、そんな方々をお待ちしております。

(原 英正 委員)



## ■ 「親子でまなぶ」

昨年の冬、飼っていた猫を事故で亡くしました。突然の出来事に家族中で泣き、幼い娘も「もう一緒に遊べない、会えない…」と悲しんでいました。そんな中、保護猫の活動をされている方が身近にいることを知り、何かできることがあればと娘と一緒に訪ねることにしました。そこで保護猫の世話をすることで私たちも徐々に心が癒え、また新たなご縁があり猫を飼うことになりました。

そして先月、出先から帰った父から「片目がつぶれガリガリに痩せたノラ猫が道端にいる」と聞いた娘が「ママ、いくよ！助けなきゃ！」と叫んだ時、保護猫の活動から「いのちの尊さ」を学んでいるのだと感じました。その時に保護した猫は、シッポは半分切断されたものの、家族で介護したこともあり、目も開き体調は回復、元気に跳び回るほどに。現在は家族の一員として迎え入れています。

保護された猫



元気になった猫ちゃん

他の猫たちと仲良く遊んでいます

佐久市環境政策課では、飼い主のいないネコをこれ以上増やさない「人とネコが共生できるまち」としてTNR活動をしています。TNRとは、「Trap（捕獲）、Neuter（不妊手術）、Return（元の場所に戻す）」の頭文字です。そして、手術後の猫は目印のために耳の先端をほんの少しV字型にカットされ、そのカットした形が桜の花びらに似ていることから、サクラ猫と呼ばれています。

猫は年2回以上繁殖し、一度に5匹ほど生まれます。そのため1年間では想像していなかったほどの頭数が増えていってしまいます。市では、飼い主のいない猫についての相談が後を絶たず、手術の補助金も半年でなくなり、現在クラウドファンディングを実施。また、多頭飼いの現場では、保護猫活動団体等と連携もしています。

保護猫のボランティアに携わる方から「今ある命は大切に。不幸な命を増やさない。このことをコンセプトとし活動しています。命に大人がどう向き合うか、子どもたちがみていることも、最近は感じるようになりました」と伺いました。また、佐久地域には、保護猫の預かりボランティアを海外実習生と取り組む企業の事例もあります。企業の担当者からは「実習生の皆さんは慣れない土地で言葉も通じず不安もあるでしょうが、猫たちと接することで孤独が和らぎ癒されているようです」とも伺いました。

課題に取り組む機関や団体がいることを理解し、地域の皆さんの活動に繋げていくことも必要かと思いました。

（佐々木 愛歌 委員）



佐久市環境政策課クラウドファンディング  
「飼い主のいない猫たちの大切な命を守りたい」

## ■ 社会教育委員として

窪田です。よろしくお願い致します。

4月に、望月公民館地区協議会長に就任しましたら、あろうことか佐久市地域公民館連絡協議会（地公連）会長という重責が覆いかぶさり、さらに『社会教育委員』まで委嘱を受けました。何それ？【社会教育委員】ってナニ？何をするの？何をすればいいの？不安だらけです…。

私は今、【公民館報さくし】の編集員として活動させていただいております。自分でも驚きですが、明年4月で12年となります。今年の3月で退任された委員の方は11年でした。もう一年、二人で歴史を残しましょうよ！と慰留を薦めましたが、体調不良により継続が叶いませんでした。今月の編集委員会で140回。無遅刻・無欠席は自分の誇りです。

編集委員の一番の悩み、苦労と言え「原稿を書いてくださる方を探す」これに尽きると思います。【私が書くの？】【何を書けばいいの？】【広報に載るんでしょ！】躊躇しますよね。しかも写真まで。多くの市民の皆様、学習グループの方々にご協力をいただきながら【公民館報】をお届けしてます。そしてこの誌面作りから、新しい出会いと思ってもよらぬネットワークの拡がり生まれます。人との出会いは本当に楽しいです。

私の高校の恩師は卒業にあたり次のような一文を寄せて送り出して下さいました。

『人の一生は【一期一会】の繋がりです。【一会】を大事に大切に生きなさい』

あれから五十年、振り返ればずっと人と係わる仕事をしています。社会教育委員もまさに人との関わりですね。委嘱された任期を無にすることなく、人生の糧として微力ではありますが関わらせていただきます。（窪田 光男 委員）

---

## ■ 編集後記

みなさん初めまして。佐久市教育委員会生涯学習課 春山と申します。私は、令和4年度新規採用職員として生涯学習課に配属されました。社会教育について右も左も分からない若輩者ですが、社会教育委員さんとの活動で吸収したことを、市民の皆様へ還元できるよう日々努力をしていきます。また、日々生活している中で様々なことに疑問をもって「学ぶ」癖を付けていきたいと思っております！

### 【発行】佐久市社会教育委員

〒385-8501 佐久市中込3056 佐久市役所南棟3階 佐久市教育委員会 社会教育部 生涯学習課

☎ 0267-62-0671 FAX 0267-64-6132 e-mail syogaigakusyu@city.saku.nagano.jp